

## 『税の形』

練馬区立光が丘第二中学校 第3学年 柳谷 幸奈

消費税は、私が初めてお小遣いを貰い、初めて自分が欲しいものを自分で買った時からある、私にとっても身近なものだ。数年前、二パーセントの増税が報じられ、様々な意見を呼んだ。たった二パーセントの増税で、と私は少し不思議に思った。消費税はついでに払うような感覚で、あまり興味が出るものでもなかったし、税金を納めることは仕方のないこと、義務だと考えていたからだ。

先日、母と会話したときに、私は聞いた「消費税は最初何パーセントだったの。」母は問に対し、こう返したのだ。

「子供の頃は消費税ってなかったよ。だから百円のものが百円で買ったの。最初にできた時はそれでも三パーセントだったんだよ。」消費税はどうやら途中から作られたらしい。それに作られてから今日まで、増税を繰り返しているよ。うだ。なぜ作られ、そして更に増えていつているのだろう。消費税は国を、私たちの生活をどう支えているのだろう。きっと私たちを、税の役割、はたらきについて知っておかなければならない。

消費税ができたのは一九八九年、平成の始めだ。現役世代への負担が集中しないよう、また景気に左右されにくく、社会保障の安定的な財源として作られたのが消費税のようだ。確かに、消費税は国の収入の納められた税金の約三分の一ほどを支えている。消費税がなければ、国の歳出の三分の一である社会保障ができる範囲は限られてくるだろう。やはり消費税は増えるだけあって、国民の生活を支えているのだ。しかし、昨今の増税もあり、減税を求める意見が目立ってきた。選挙で多くの立候補者がうたうのも減税だ。それだけ国民がそれを求めているということだ。増税が行われたのはなぜだろうか。国民の反感をすくなくならず買うことも分かっていたはずだ。そこまでして行われた理由は今の日本の状態にあるに違いない。

平成に時代が移る前から、日本は赤字続きだ。それがだんだんと溜まってきた、現在、日本は借金に依存している。そしてまた赤字は続いていくのだ。このままでは、消費税を始めとした税は増えていく一方だ。

今、悪循環に入っている日本は、税の形を時代に合わせて変えていく必要がある。はるか昔から、税は時代と共に形を変えてきた。形は違くとも、人を支える社会を支える。この役割は同じはずだ。

税はあった方がいい。国民の生活を支え、沢山の人の役に立つ。納税は義務とされているが、私は町や未来への投資だと思う。様々な場所で税が活かされている。そして、豊かで安定した社会を築くためには、税について「現代」を生きる私たちが今、考えていく必要がある。